

第1回 ようこそ考古学

# 縄文人と貝塚

(財) かながわ考古学財団 松田光太郎



横浜市稲荷山貝塚貝層断面

2007. 1. 26(金) かながわ県民センター 会議室

## はじめに

### ・身近にある貝塚

- ・地名
- ・史跡・公園

川崎市子母口(しばぐち)貝塚、横須賀市夏島貝塚・茅山(かやま)貝塚・吉井貝塚、茅ヶ崎市堤貝塚・平塚市五領ヶ台貝塚

## 1. 貝塚とは

### (1) 貝塚の用語の由来

- ・モースによる東京都大田区大森貝塚の発掘(1977年)  
モース SHELL MOUNDS OF OMORI 『大森介墟古物編』(翻訳)  
(1979年)

### (2) 貝塚の定義

人為的に廃棄された貝殻が層をなして堆積した遺跡

### (3) 貝塚の数と分布

- ・酒詰仲男 1959『日本貝塚地名表』  
全国貝塚 2000余箇所。うち縄文は 1108 箇所
- ・神奈川県 縄文約 130 箇所

### (4) 貝塚の種類と規模

- ・種類(平面形・堆積場所・立地)
  - A. 平面形
    - ・環状貝塚・馬蹄形貝塚：形が環状・馬蹄形をなすもの。大形貝塚に限定。
    - ・それ以外：環状・馬蹄形以外の不整形なもの。多数ある。
  - B. 堆積場所
    - ・斜面貝層：急な斜面に堆積したもの
    - ・住居址内貝層：竪穴住居廃絶後、その窪地に堆積したもの
    - ・土坑内貝層(ブロック)：穴の中に堆積したもの
      - \*土坑内貝層は貝塚と規模が小さいので呼ばないことが多い。
    - ・その他：平地等に堆積したもの
  - C. 立地
    - ・台地上
    - ・低地

**第1表** 全国における貝塚数 『日本貝塚地名表』(酒詰 1959)、石井他 1978 より)

	縄文	類縄文	弥生	土師・須恵	その他	合計
北海道	11	55			48	114
東北	190		3	34	10	237
関東	664		35	90	44	833
中部	89		50	48	35	222
近畿	14		9	14	14	51
中国	62		180	40	29	311
四国	17		12	8	18	55
九州	61		87	13	83	244
	1108	55	376	247	281	2067

\*類縄文は北海道の続縄文(弥生時代)などをさす。

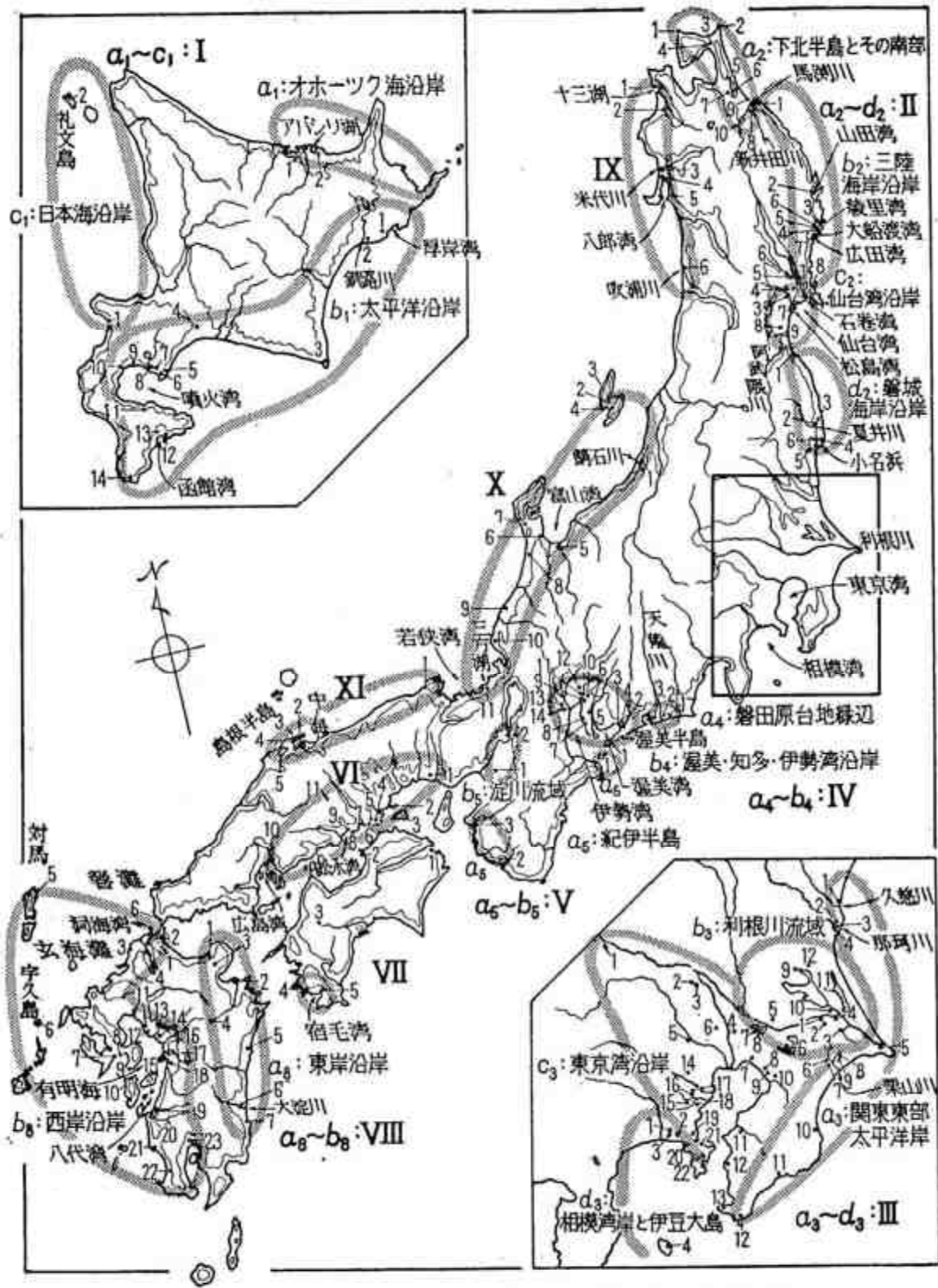


図 150 縄文時代の貝塚分布図 本図には本文に記載した貝塚のすべてをしるした。なお、貝塚以外の遺跡で貝殻を比較的多量に出土した例もこれにくわえておいた

第1図 縄文時代の貝塚分布図(金子 1965)

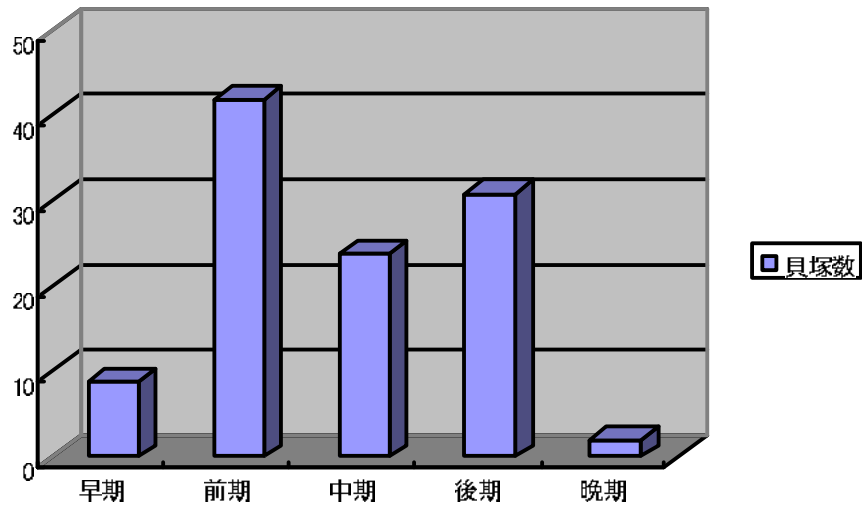


第1図 神奈川県下主要貝塚分布図

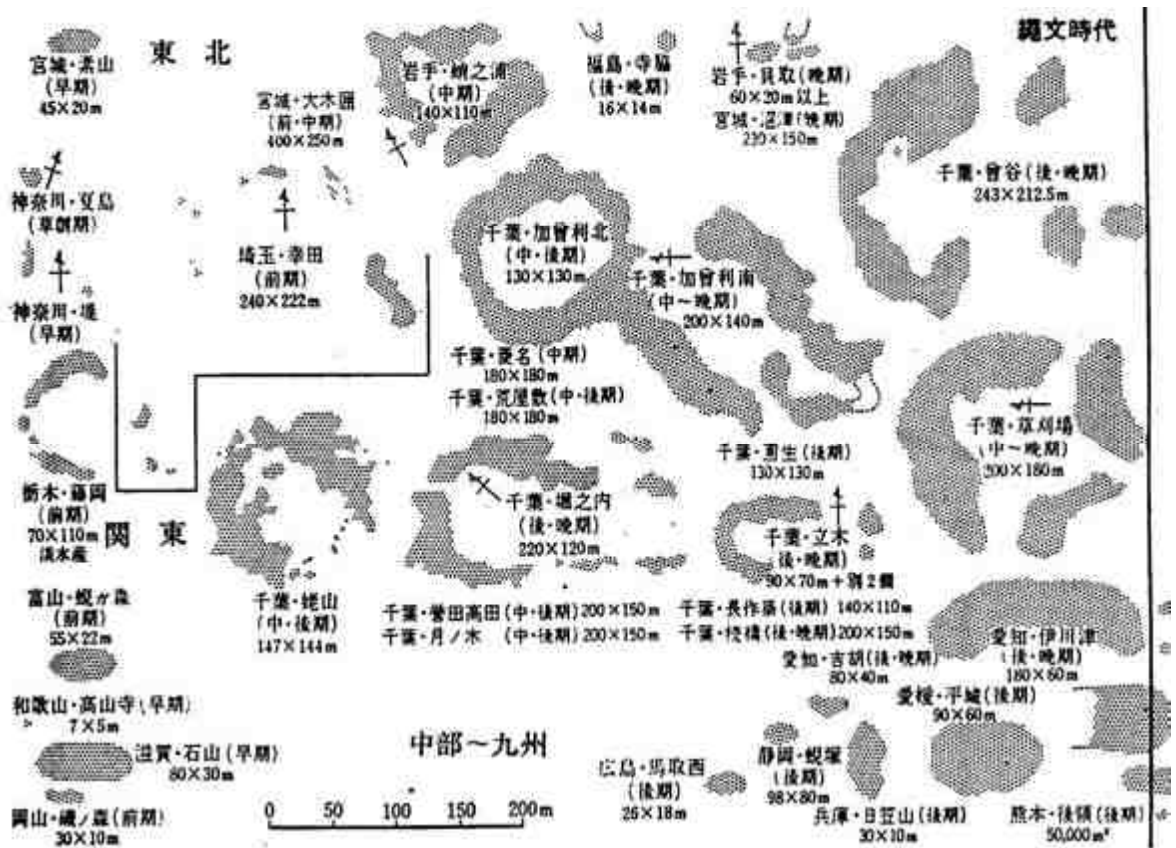
1. 子母口 2. 窪台 3. 新作 4. 大原 5. 影向寺 6. 井田 7. 有山 8. 南加瀬  
 9. 矢上谷戸 10. 箕輪 11. 南網島 12. 下組(西・東) 13. 下田(西・東) 14. 高田 15. 南堀  
 16. 西ノ谷 17. 茅ヶ崎 18. 境田 19. 峯谷 20. 北川 21. 宮の原 22. 神隠丸山 23. 中の窪  
 24. 新羽(北新羽) 25. 師岡 26. 菊名 27. 表谷東 28. 表谷西 29. 折本 30. 折本西原  
 31. 源東院 32. ホー2 33. 梶山 34. 神大寺 35. 利倉 36. 下菅田 37. 供養塔 38. 笹  
 39. 駒岡 40. 上台 41. 小仙塚 42. 別所 43. 北台 44. 荒立 45. 蕃神台 46. 風早台 47. 大  
 口台 48. 白幡西 49. 史ヶ丘 50. 三ツ沢 51. 帷子 52. 仏向 53. 池ノ端 54. 伊勢山 55. 山  
 手 56. 元町 57. 三殿台 58. 矢畑 59. 清水ヶ丘 60. 山王台 61. 平台 62. 坂ノ台 63. 稲荷  
 山 64. 森町 65. 杉田 66. 称名寺 67. 青ヶ台 68. 野島 69. 夏島 70. 榎戸 71. 平坂 72.  
 平坂東 73. 深田 74. 中台北 75. 中台南 76. 高坂 77. 江戸坂 78. 吉井 79. 茅山 80. 猪磯  
 81. 平戸名 82. 向川名 83. 西富 84. 渋沢 85. 遠藤 86. 堤 87. 西方 88. 行谷 89. 五領ヶ  
 台 90. 万田 (金子浩昌1992「日本考古学における動物遺存体研究史」の分布図に加えました。地  
 域区分は、酒詰伸男1959「日本貝塚地名表」に従い、遺跡の番号順は赤星直忠・岡本勇1979「神奈川  
 県史」を優先しました。)

\*本図には無いが、近年小田原市羽根尾貝塚(前期)・茅ヶ崎市久保山貝塚(後期)などが発見された。

第2図 縄文時代の貝塚分布図(中村 1994)

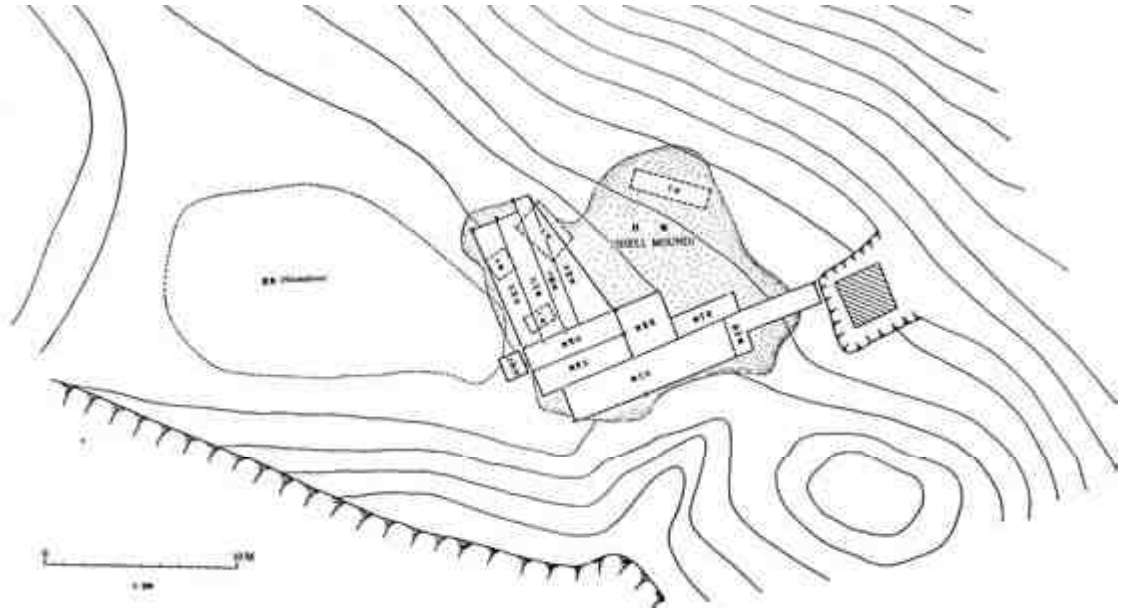


第3図 神奈川県における貝塚数 (中村 1994より)

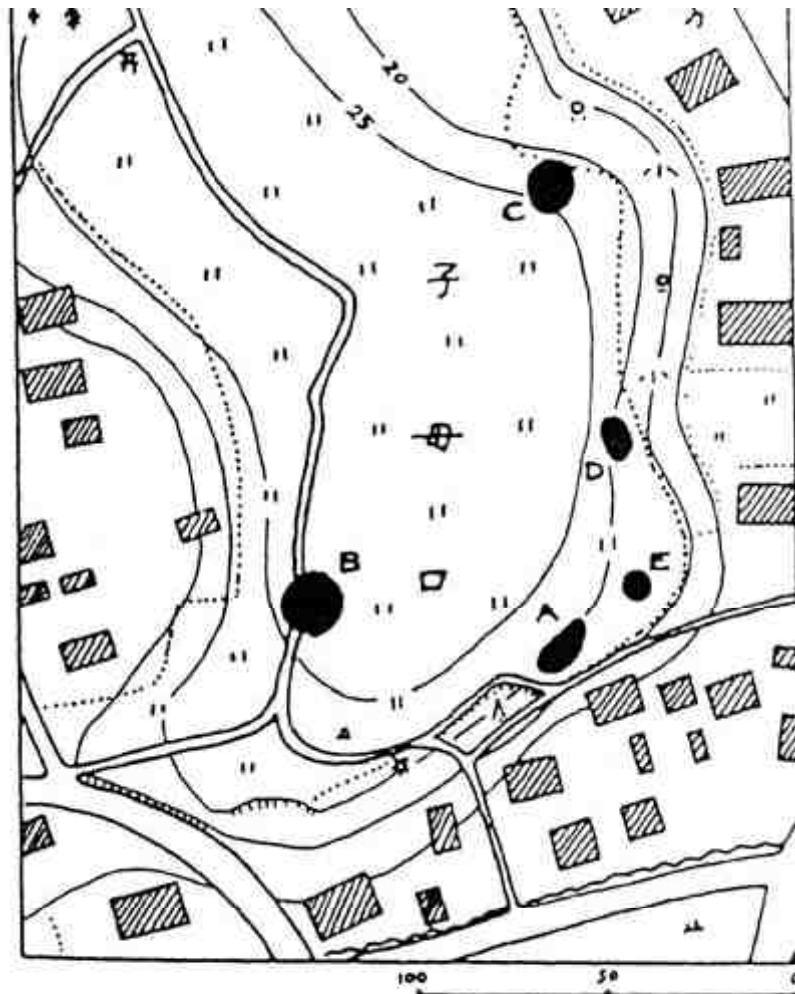


第4図 全国の貝塚の規模 (佐原 1975・鈴木 1989)

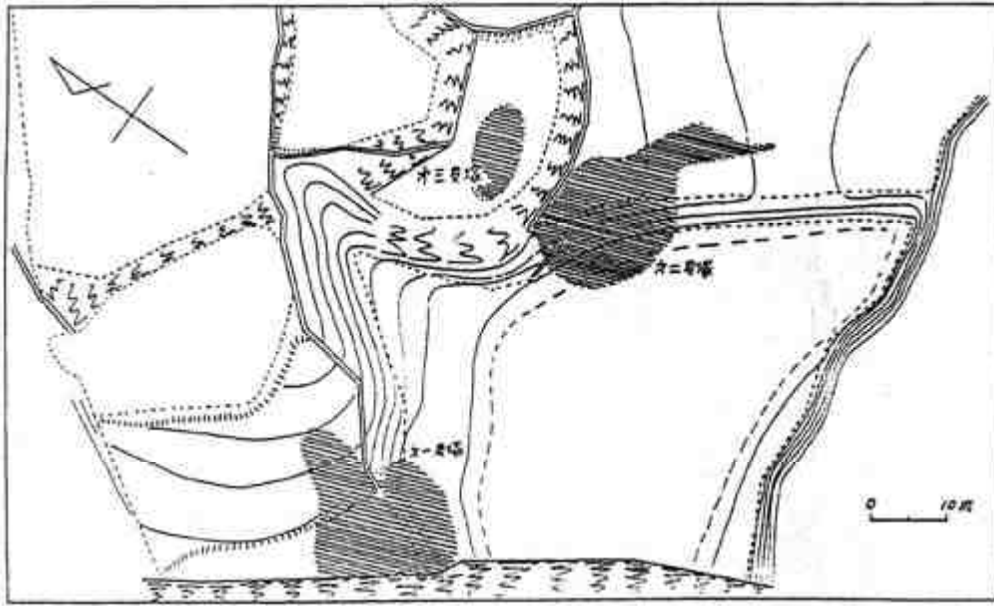
- 神奈川県内の主要貝塚の規模



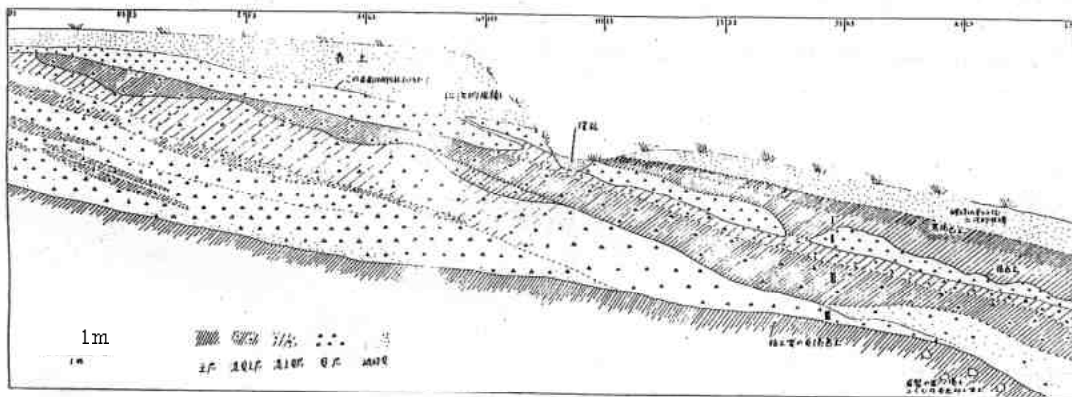
第5図 横須賀市夏島貝塚(早期) (『神奈川県夏島における縄文文化初頭の貝塚』)



第6図 川崎市子母口貝塚(早期) 1/2000 (『川崎市民ミュージアム紀要1』1989)



平面図

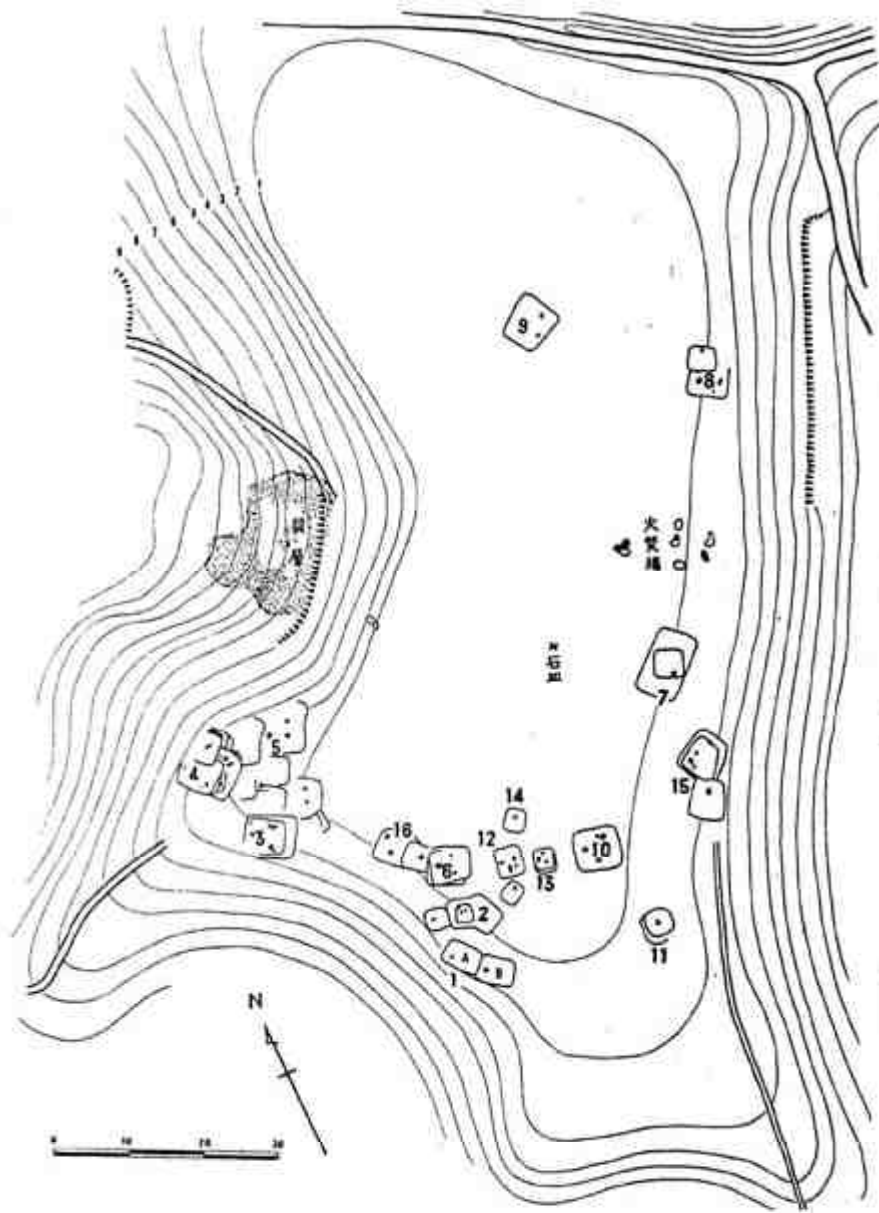


断面図

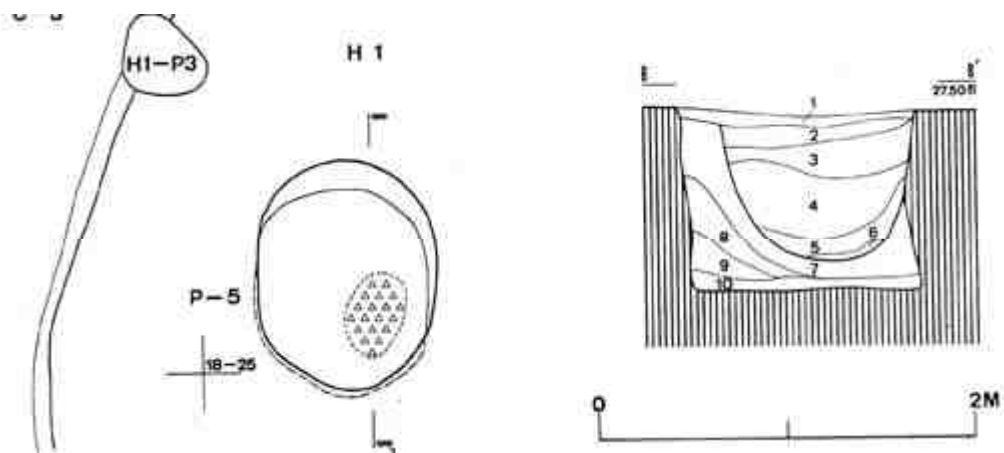
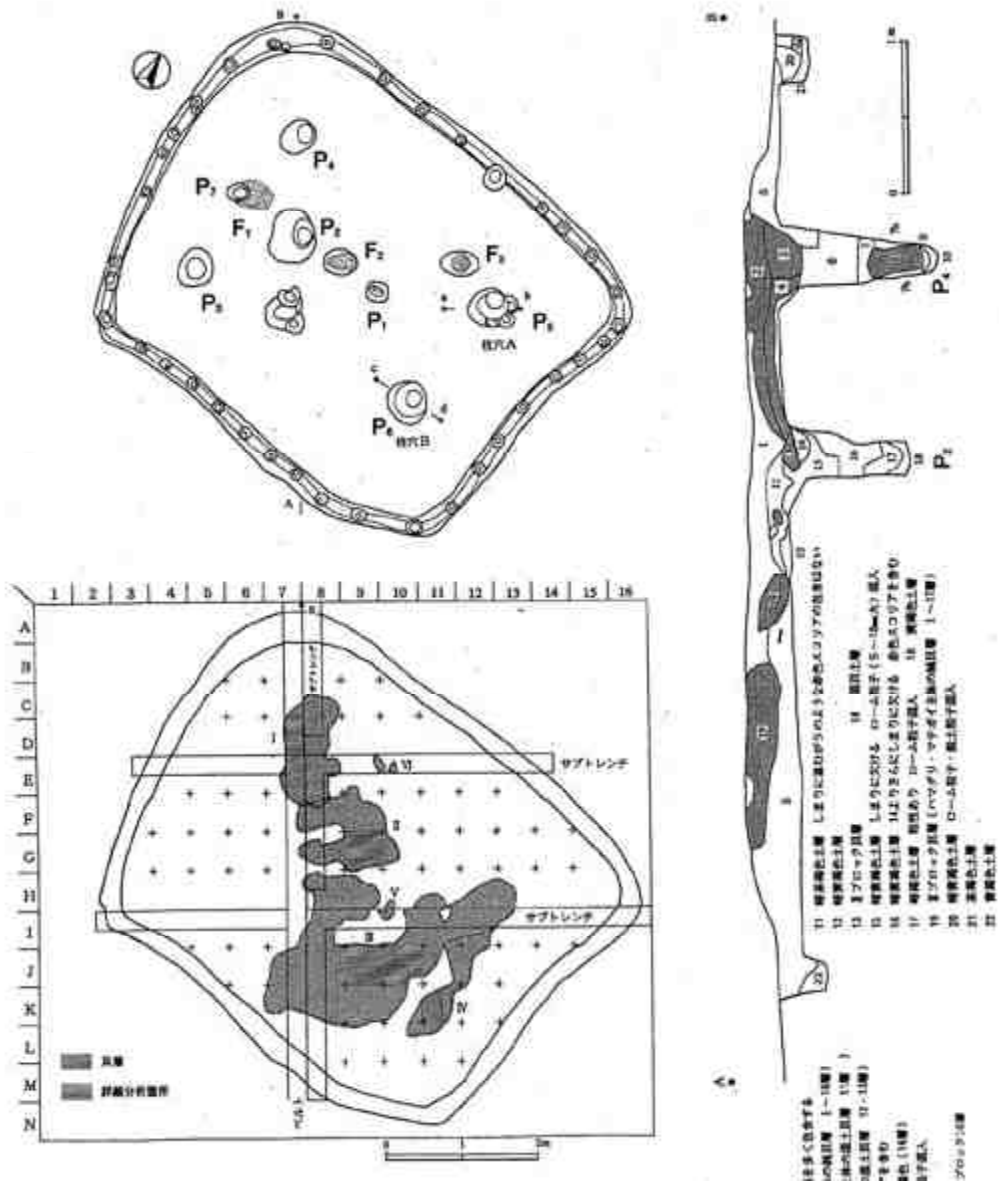
下部貝層は早期、上部貝層は中期

- \* 純貝層：貝殻が大部分を占める層
- \* 混土貝層：貝殻が大部分で、土が少し混じる層
- \* 混貝土層；土が大部分で、貝殻が少し混じる層



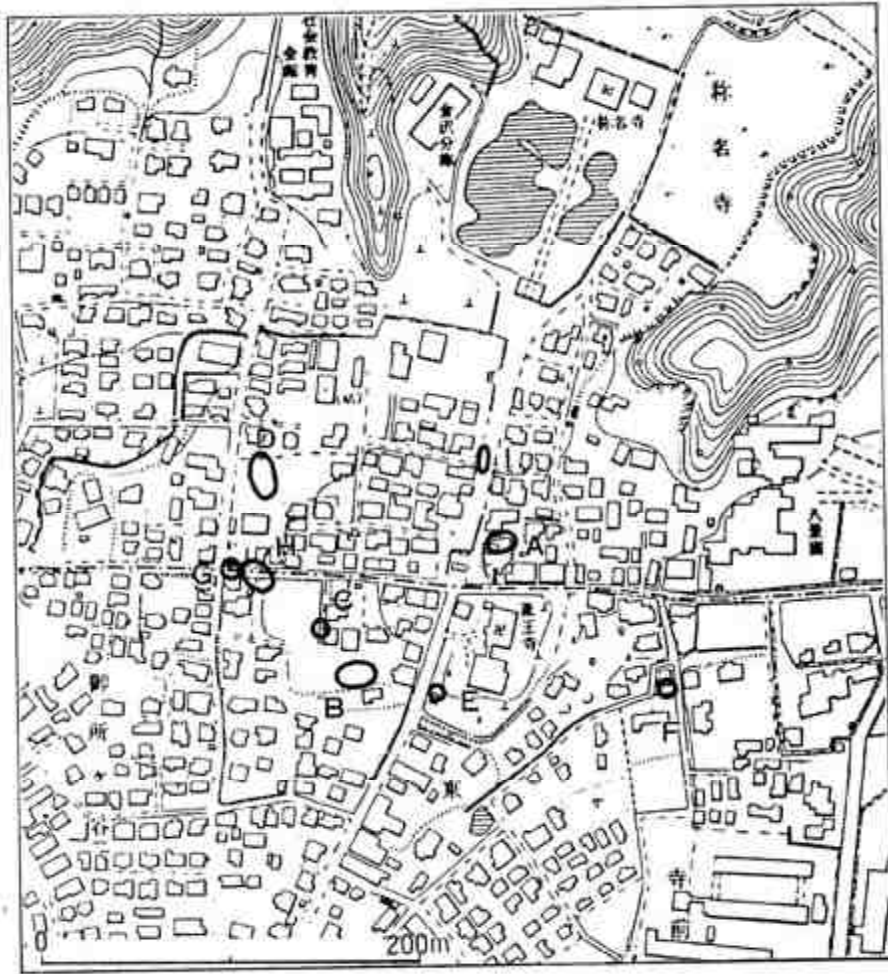


第8図 横浜市南堀貝塚(前期) 1/1000 (『横浜市史』1958)





第11図 平塚市五領ヶ台貝塚(中期) 1/2000 (『平塚市文化財調査報告書9』1970)



第12図 横浜市称名寺貝塚(後期) 1/4000  
 『古代のよこはま』1986)

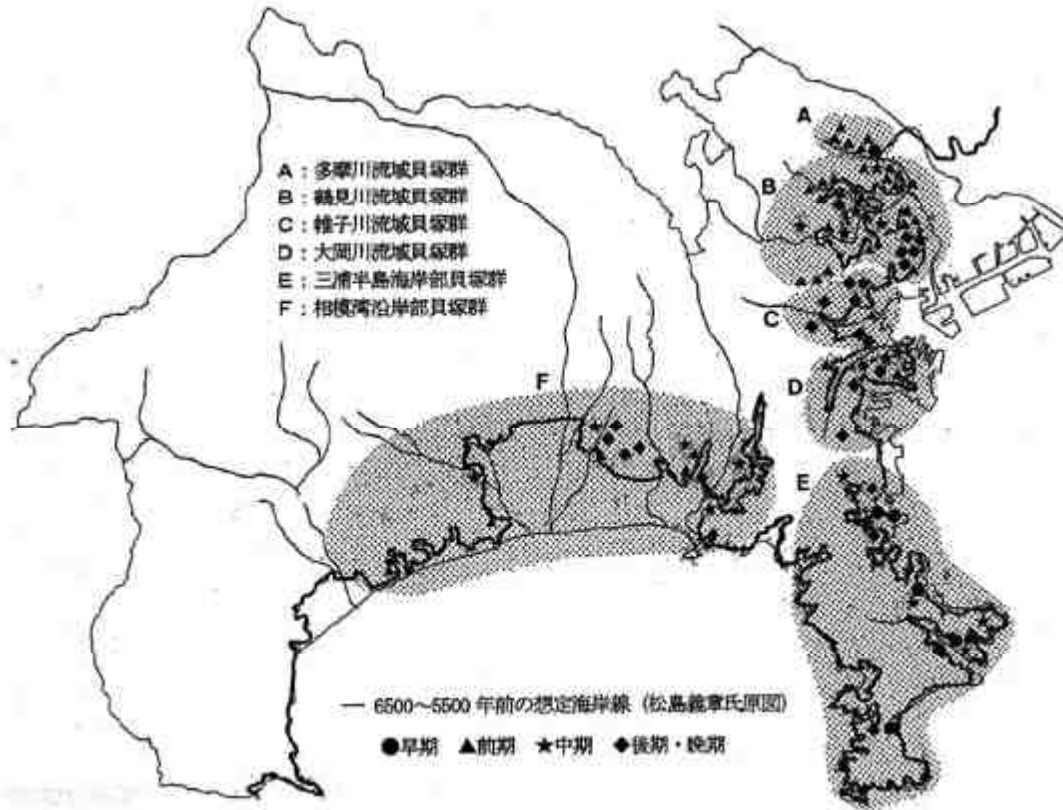


第13図 三ツ沢貝塚(後期) 1/5000 (『三ツ沢貝塚発掘100年』2006)

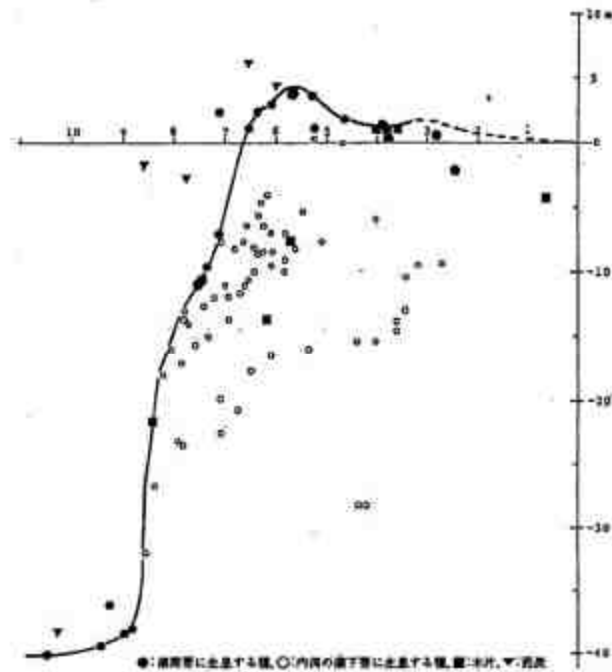
## 2. 貝塚と自然環境

### (1) 神奈川県内の貝塚分布と推定海岸線

縄文時代の海岸線は海進・海退の影響や河川による砂泥堆積で変化した。



第14図 神奈川県内の貝塚分布と推定海岸線(川口 2006)



第15図 川崎市・横浜市域の縄文時代の海面変動 (松島 1996)

## (2) 貝類の生息環境

### ・ 貝類の生息環境による分類

貝類は生息環境により陸産貝類、淡水・汽水・海水域生息貝類などに分類できる。

→ 貝塚の主体貝種により貝塚を分類することができる。当時の環境復元に役立つ。

例、主淡水貝塚：淡水性貝類(タニシなど)が主体をなす貝塚

主汽水貝塚：汽水性貝類(ヤマトシジミ)が主体をなす貝塚

主鹹(かん)貝塚：海水性貝類(ハマグリ・アサリ等)が主体をなす貝塚

### ・ 海水域生息貝類の生息環境による細分類

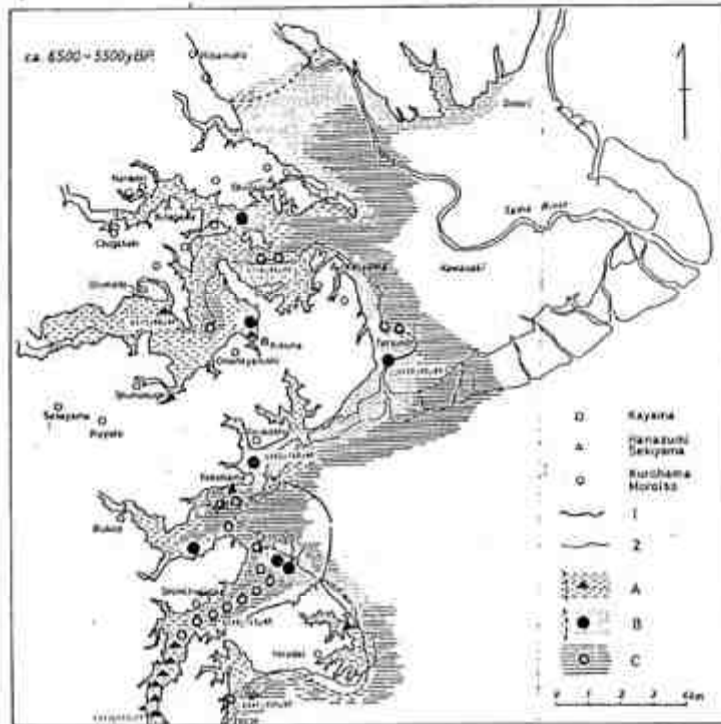
内湾生息貝類の分類

水域	外洋水域	沿岸水域				
環境	海の外側	河口部	近岸部	海中	中央部	内湾部
堆積物	砂質	砂礫質	岩礁	砂質	シルト～泥質	砂泥質
離島帯			F群集 (オホヘビ ガイ カタザル ガイ カタメド シモキ)	B群集 (ハマグリ ガイ シボキ イボキ アサリ ササリ ヒトリ)	C群集 (ウツカガ イ イロズ レ アカガイ トリガイ シズタ イ)	A群集 (マガキ ウツカガ トマキ ガイ ハイガイ オキ イボウ ユナ)
上島根海近帯	E群集 (ベンケイ ガイ ウツカ ガ シボキ アサリ カタメ コタメ イ ワスレ イ)	D群集 (イワガ イ イボガ キ ウツカ アサリ イボキ ゴ)				

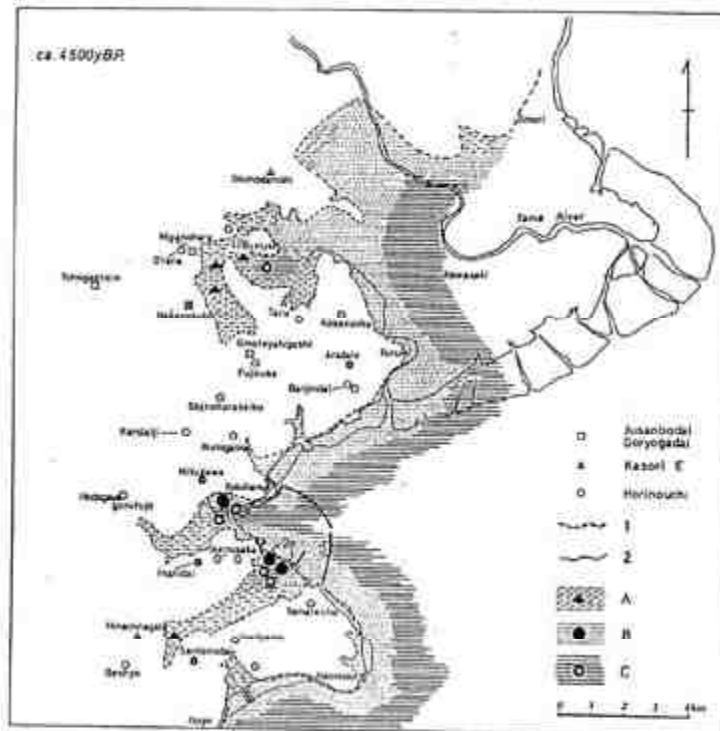
- 注 A群集：干潟群集  
 B群集：内湾砂底群集  
 C群集：内湾泥底群集  
 D群集：砂礫底群集  
 E群集：沿岸砂泥底群集  
 F群集：内湾岩礁性群集

第16図 内湾における貝類の生息環境区分 (松島他 1974)

・横浜付近の縄文時代の海岸線



18 約 6500～5500 年前の東京湾西岸横浜付近の古地理と貝塚の分布 (松島・小池原図)  
 Kayama: 早期茅山式, Hanazumi・Sekiyama: 前期花積下層・閉山式, Kurohama・Moroiso: 前期黒旗・踏踏式, 1: 約 6500～5500 年前の海岸線, 2: 1895 年頃の海岸線, A: A 群集と A 群集の生息域; 海成層の分布範囲, B: B 群集と B 群集の生息域; 海成層の分布範囲, C: C 群集と C 群集の生息域。



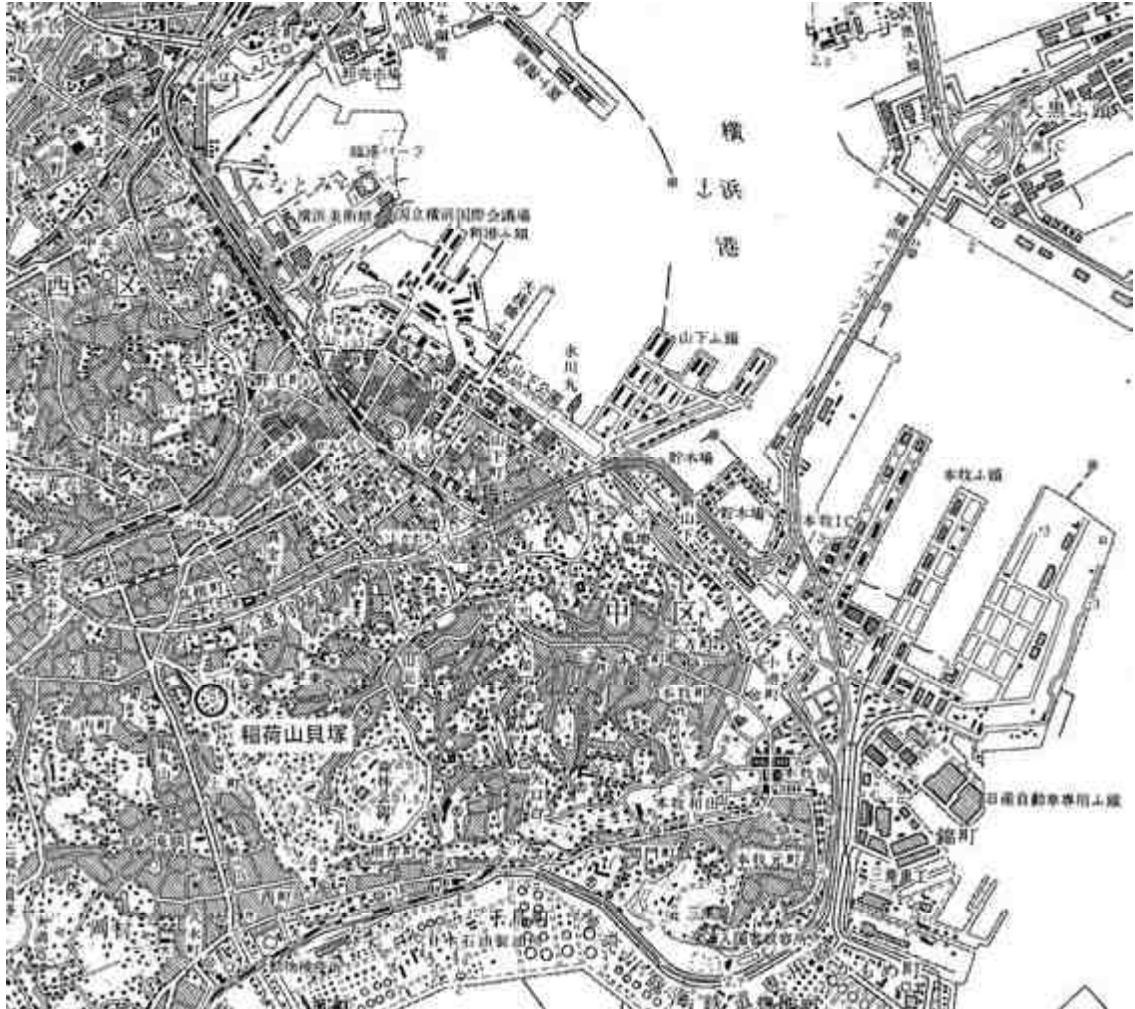
19 約 4500 年前の東京湾西岸横浜付近の古地理と貝塚の分布 (松島・小池原図)  
 Jusanbodai・Goryogadai: 前期末十三番橋・中期初頭五個ヶ台式, Kasori E: 中期加谷利 E 式, Horinouchi: 後期堀之内式, 1: 約 4,500 年前の海岸線, 2: 1895 年頃の海岸線, A: A 群集と A 群集の生息域, B: B 群集と B 群集の生息域, C: C 群集と C 群集の生息域。

第 17 図 横浜付近の古地理と貝塚の分布 (松島他 1974) 上. 6500～5500 年前、下 4500 年前

### 3. 貝塚調査の実例:横浜市稲荷山貝塚

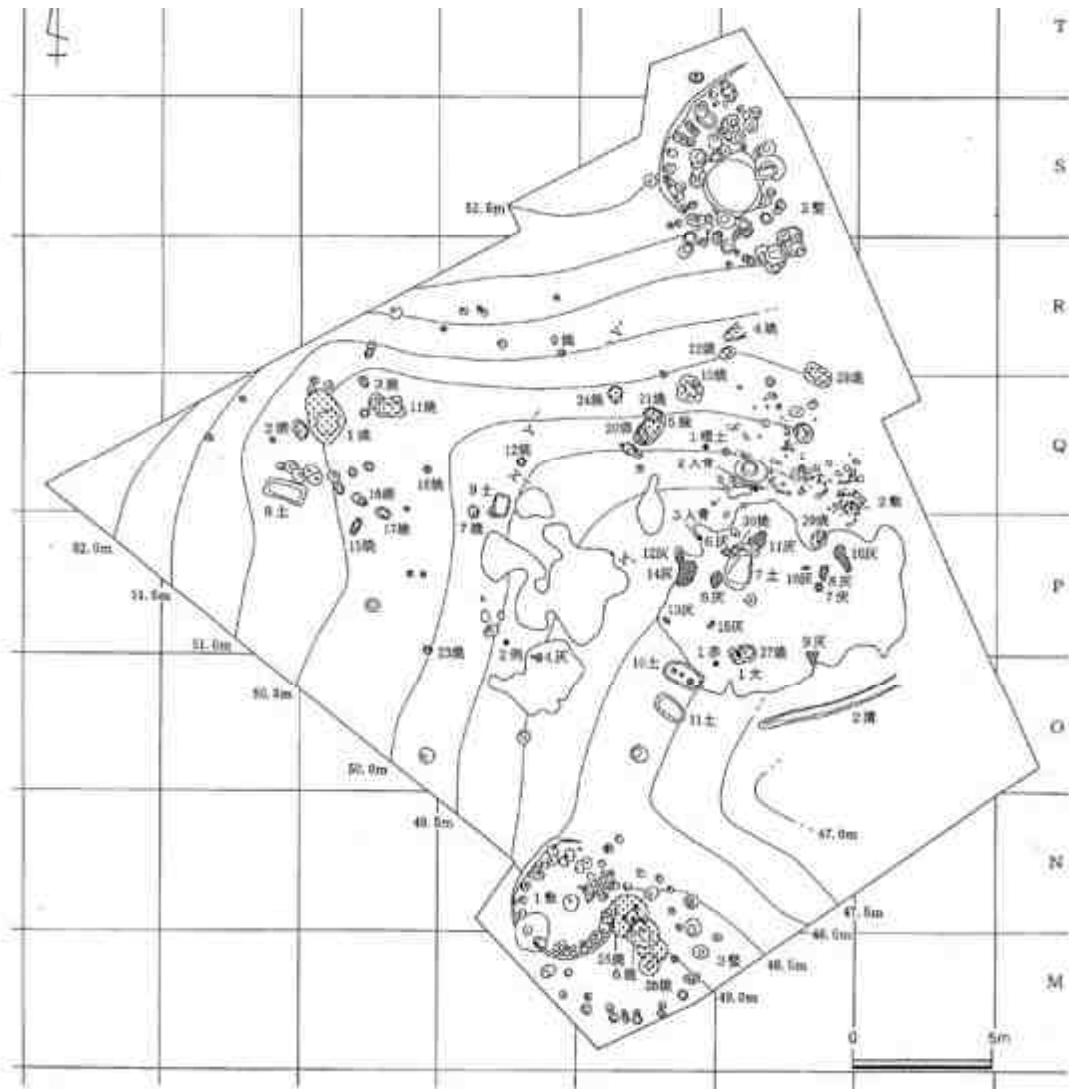
#### 概要

- ・所在地：横浜市南区山谷
- ・調査：かながわ考古学財団 2000年4月～7月
- ・縄文時代後期の貝塚2箇所

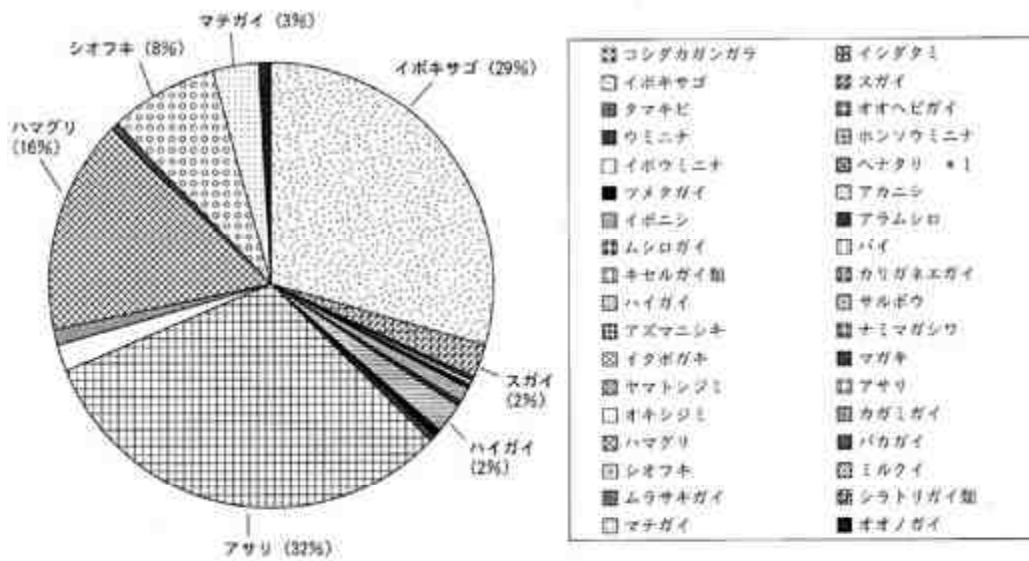


第18図 稲荷山貝塚の位置 (松田他 2002)

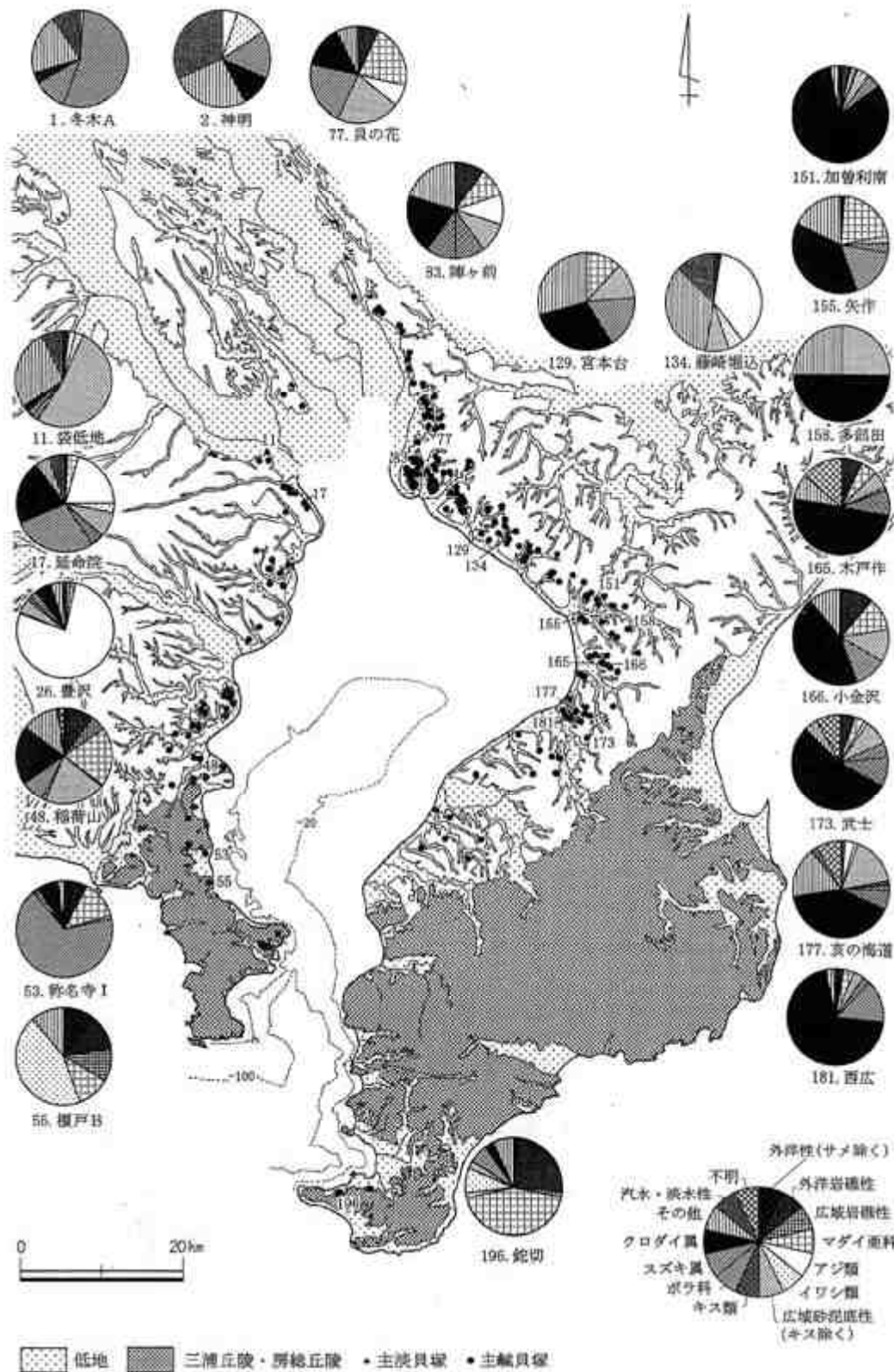




第19図 稲荷山貝塚第2地点の遺構配置(松田他 2002)



第20図 稲荷山貝塚の貝類組成(松田・樋泉 2002)



・稲荷山貝塚出土の魚類の特徴

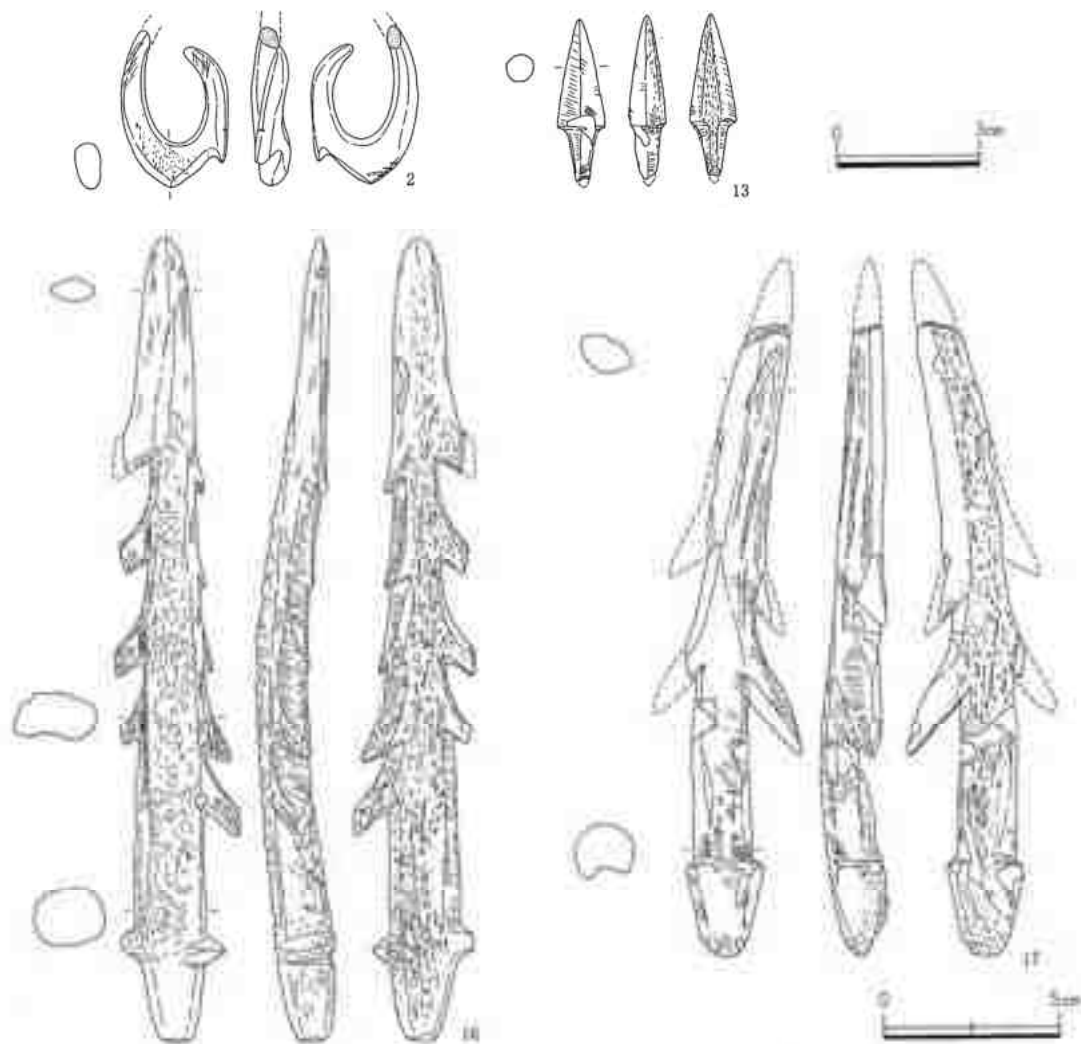
外洋性のマダイ、内湾性のクロダイ・スズキ、内湾砂泥底性のコチ・ヒラメ・カレイが多い。その他、岩礁性のカサゴ・メバル・アイナメ、外洋性のブリ・カツオ・マグロ、回遊魚のアジ・イワシが混じるのが特徴。(上図は大形魚類のみを図示したもののため、アジ・イワシは含まれていない。)

第 21 図 稲荷山貝塚と東京湾後期貝塚の出土魚類組成 (松田 2005)

第2表 稲荷山貝塚の出土鳥獣類組成(松田・樋泉 2002 より)

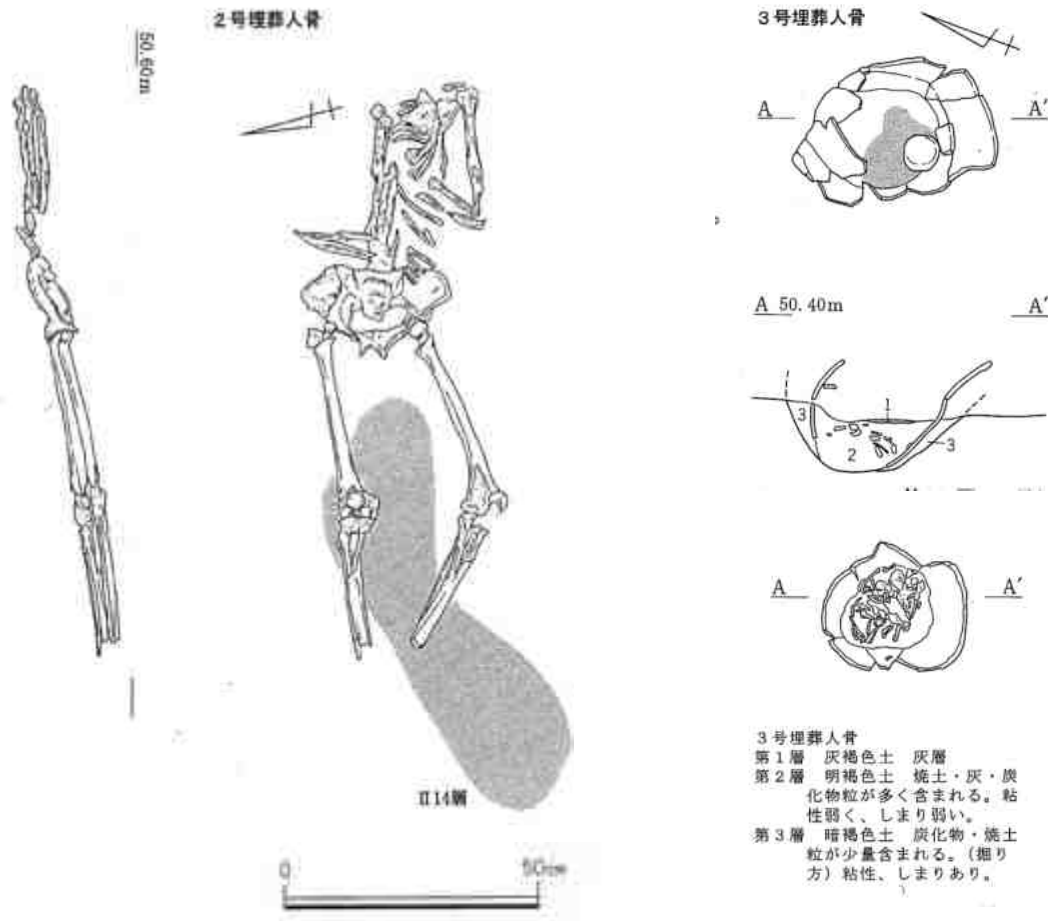
鳥類	個体数	海棲獣類	個体数	獣類	個体数
カラス等	4	アオウミガメ	3	ニホンザル	7
フクロウ	1	マイルカ	5	ノウサギ	7
ワシタカ	2	クジラ	3	タヌキ	10
ガン・カモ	13	アシカ	2	キツネ	2
ウ	3			イヌ	13
カイツブリ	2			アナグマ	3
アビ	1			カワウソ	3
カモメ	1			テン	3
ツル	1			イタチ	2
キジ	5			イノシシ	23
				シカ	11

鳥類：ガン・カモが多い。ウ・アビ（水鳥）・カモメの存在は沼沢や海の存在を示す。  
海棲獣類（イルカ・クジラ）の存在が特筆される。獣類ではシカが最も多い。



2は釣針、13は鏃、16・17は銚。このほか先端を尖らせただけのヤスも多数出土。

第22図 稲荷山貝塚の骨角器 釣針・ヤス・銚 (松田他 2002)



第23図 稲荷山貝塚の埋葬 (松田他 2002)

まとめ

- ・貝塚調査のもつ可能性：貝類・骨(動物遺存体・人骨)・骨角器が残存→生業・環境・墓制等をはじめとして、さまざまな研究に応用が可能。
- ・今後の課題：引き出される情報は調査時の研究レベルや問題意識を反映。保存の重要性

参考文献

酒詰仲男 1959『日本貝塚地名表』

石井則孝他 1978『縄文貝塚の謎』新人物往来社

金子浩昌 1965「貝塚と食料資源」『日本の考古学Ⅱ』河出書房

中村若枝 1994「神奈川県下の縄文時代貝塚を概観して(序)」『考古論叢神奈河』3 神奈川県考古学会

川口徳治朗 2006「神奈川の遺跡調査をめぐる30年 縄文時代」『第30回神奈川県道跡・調査発表会要旨』神奈川県考古学会

松島義章他 1974「南関東における縄文海進に伴う貝類群集の変遷」『第四紀研究』17-4

松田光太郎・樋泉岳二他 2002『稲荷山貝塚』かながわ考古学財団

松田光太郎 2005「縄文時代後期前葉の東京湾における漁労活動の様相」『神奈川考古』41

\*報告書は紙面の都合で割愛した。

入門書

鈴木公雄 1989『貝塚の考古学』東京大学出版会

松島義章 2006『貝が語る縄文海進』有隣堂